様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

福岡市西部地域地区

平成28年2月

福岡県福岡市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	福岡市	地区名	福岡市西部地域地区			面積	約720 ha
交付期間	平成23年度～27年度	事後評価実施時期	平成27年度	交付対象事業費	8,218.9百万円	国費率	0.4		

			事業名		
1）事業の実施状況	当初計画に位置づけ，実施した事業	基幹事業	○道路（学園通線（田尻）、今津埋立場周辺道路） ○高次都市施設（公民館（今宿、玄洋） ○土地区画整理事業（伊都土地区画整理事業）		
		提案事業	○地域創造支援事業（第二産学連携交流センター） ○事業活用調査（効果発現調査）		
			事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標，指標，数値目標への影響
	当初計画から削除した事業	基幹事業	○地域生活基盤施設（老人いこいの家（今宿、玄洋、今津、元岡））	基幹事業から提案事業へ変更	提案事業への変更であり、事業は計画通りに実施され、期待される効果に影響はないことから、指標及び数値目標は据え置く。
			○高質空間形成施設（伊都土地区画整理事業区域内（九大学研都市駅南口側））	交通管理者との協議が整わなかったため事業を削除	JR九大学研都市駅利用者の利便性向上が期待されたものの、指標への影響は間接的なものに留まるため、指標及び数値目標は据え置く。
			○高次都市施設（公民館（今津、元岡））	地元協議が整わなかったため事業を削除	第6回変更時に一部事業を削除し、指標への直接的な影響があるため、指標の定義および数値目標について見直しを行っている。
		提案事業	なし		
	新たに追加した事業	基幹事業	○道路（福岡志摩線（元浜））	関連事業から基幹事業へ変更	関連事業からの変更であり、事業は計画通りに実施され、期待される効果に影響はないことから、指標及び数値目標は据え置く。
			○地域生活基盤施設（九大学研都市駅自転車駐車場）	放置自転車対策として事業を追加	第5回変更時に追加された事業であり、JR九大学研都市駅利用者の利便性向上が期待されるものの、指標への影響は間接的なものに留まるため、指標及び数値目標は据え置く。
			○地域生活基盤施設（山の鼻1号墳）	地域住民と協議した結果、地域生活基盤施設（広場）として史跡を整備し、市民に公開することになったため、事業を追加	第6回変更時に追加された事業であり、住環境の向上が期待されるものの、指標への影響は間接的なものに留まるため、指標及び数値目標は据え置く。
			○公園（伊都2号公園）	関係機関との調整が整ったため事業を追加	第3回変更時に追加された事業であり、住環境の向上が期待されるものの、指標への影響は間接的なものに留まるため、指標及び数値目標は据え置く。
		提案事業	○地域創造支援事業（有機光エレクトロニクス産学連携実用化基盤センター）	産学連携を充実するための拠点施設として事業を追加	第2回変更時に追加された事業であり、産学連携の取組みの推進が期待されるが、指標への影響は間接的なものに留まるため、指標及び数値目標は据え置く。
			○地域創造支援事業（老人いこいの家（今宿、玄洋、今津、元岡））	基幹事業から提案事業へ変更（第2回変更） うち、今津・元岡については、地元協議が整わなかったため、事業を削除（第6回変更）	第6回変更時に一部事業を削除し、指標への直接的な影響があるため、指標の定義および数値目標について見直しを行っている。
	交付期間の変更	当　初	平成23年度～27年度	交付期間の変更による事業，指標，数値目標への影響	
		変　更	なし		

	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	駅利用者数	人/日	8,700	H21	10,600	H27		15,328	○	あり なし		土地区画整理事業に伴う計画地区の人口増加、九州大学移転に伴う学生・教職員の増加等により、通勤・通学者が増加している。また、九大学研都市駅前に立地した「さいとぴあ」利用者、九州大学を会場とするイベントや国際会議参加者も当該駅を利用することから、目標値を大きく上回った。	平成28年5月頃
	指標2	バス利用者数	人/日	2,050	H21	2,400	H27		4,799	○	あり なし		九州大学移転に伴う学生・教職員の増加等により通勤・通学者が増加している。また、九州大学では、大学と地域の交流イベントや国際会議等も開催されている。大学の移転に合わせ、バス路線延伸やバス停新設などバスの利便性も向上しており、バス利用者が目標値を大きく上回った。	平成28年5月頃
	指標3	民間等との共同研究実施件数	件/年	612	H21	646	H27		703	○	あり なし		「産学連携交流センター2号棟」や「有機光エレクトロニクス実用化開発センター」の整備により、産学連携を促進する研究開発施設が拡充した。さらに、産学官連携支援活動を進めたことで、民間等との共同研究実施件数は目標を達成した。	平成28年11月頃
	指標4	留学生数	人	1,509	H21	1,790	H27		2,097	○	あり なし		九州大学内外において水素関連や有機ELの研究施設が数多く立地するなど、大学の魅力が向上している。また、土地区画整理事業による安全で快適な環境の整備の進展など、まちの魅力も向上していることから、留学生数は目標を達成した。	なし
	指標5	人口の定着	人	27,100	H21	28,700	H27		36,034	○	あり なし		計画地区では、土地区画整理事業等により安全で快適な居住環境が整備された。また、九大学研都市駅や「さいとぴあ」、大規模商業施設が立地する生活利便性の高い地域として、まちの魅力も向上している。そのため、計画地区の人口増加率は市全体よりも高い伸びを示し、目標値を大きく上回った。	平成28年5月頃
	指標6	公民館利用者数	人/年	26,200	H21	26,200	H27		26,932	○	あり なし		公民館と老人いこいの家を合築した「今宿公民館」では、地区コミュニティ拠点としての機能向上が図られたことで利用者数が増加した。平成27年度末完成予定の「玄洋公民館」は、現状では利用者が微減しているものの、両公民館の平均利用者数としては目標を達成した。	平成28年5月頃

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	－											
	その他の数値指標2	－											

4）定性的な効果発現状況	・伊都及び元岡土地区画整理事業により、安全で快適な定住環境が整備され、まちの魅力が向上した。 ・大学と地域の連携・交流促進事業を通じて九州大学を核とした地域づくりが進展し、学研都市としてのまちの魅力が向上した。

5）実施過程の評価		実施内容	実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し，実施できた		
			都市再生整備計画に記載はなかったが，実施した		
			都市再生整備計画に記載したが，実施できなかった		
	住民参加プロセス	アーバンデザイン会議九大（旧タウン・オン・キャンパスまちづくり推進会議）の実施	都市再生整備計画に記載し，実施できた		今後も同様に継続していく。
			都市再生整備計画に記載はなかったが，実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが，実施できなかった		
	持続的なまちづくり体制の構築	アーバンデザイン会議九大（旧タウン・オン・キャンパスまちづくり推進会議）の実施	都市再生整備計画に記載し，実施できた		今後も同様に継続していく。
			都市再生整備計画に記載はなかったが，実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが，実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

福岡市西部地域地区（福岡県福岡市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 知の創造空間”九州大学学術研究都市”の顔となる福岡市西部地域の拠点づくり 目標１　都市機能の高質化と交通結節機能の更なる強化により、九州大学学術研究都市の玄関口としてふさわしい地域拠点の形成をめざす 目標２　九州大学の知的財産を活用し、知の交流･創造活動を軸とした産学連携･研究開発拠点の形成をめざす 目標３　都市機能の充実による生活利便性の向上や更なる安全で快適なコミュニティ形成等により、計画地区における定住促進をめざす	駅利用者数	単位：人／日	8,700	H21	10,600	H27	15,328	H27
	バス利用者数	単位：人／日	2,050	H21	2,400	H27	4,799	H27
	民間等との共同研究実施件数	単位：件／年	612	H21	646	H27	703	H27
	留学生数	単位：人	1,509	H21	1,790	H27	2,097	H27
	人口の定着	単位：人	27,100	H21	28,700	H27	36,034	H27
	公民館利用者数	単位：人／年	26,200	H21	26,200	H27	26,932	H27

元岡土地区画整理事業（全景）

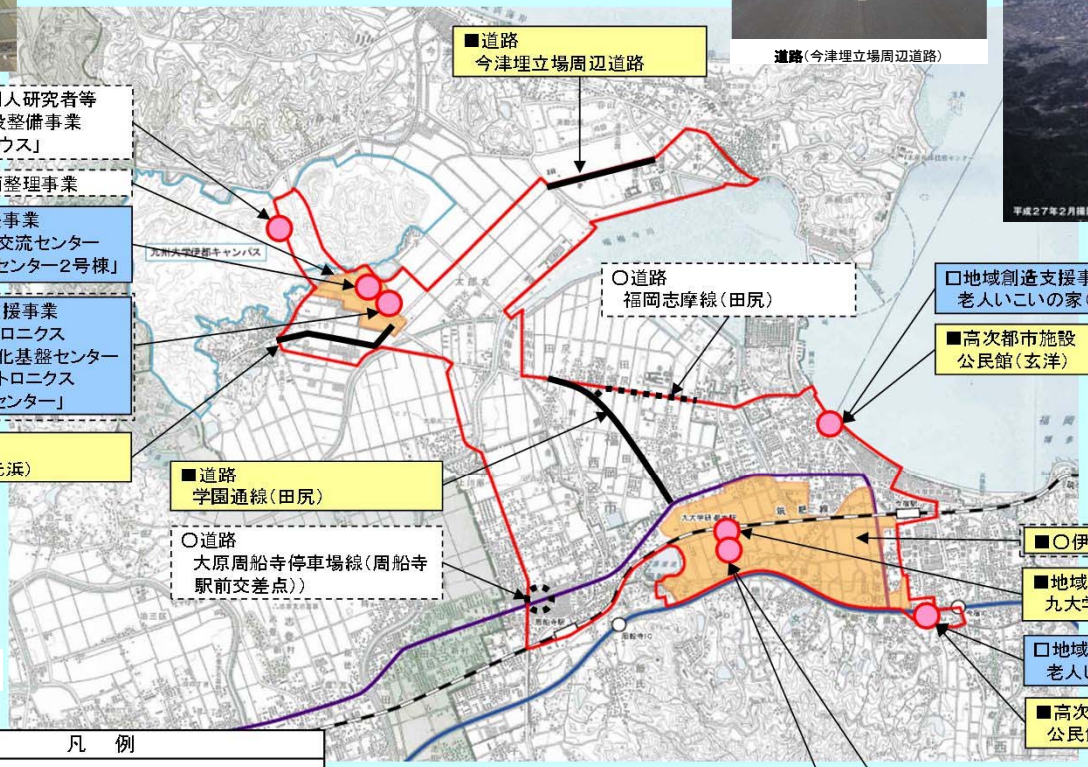
道路（今津埋立場周辺道路）

伊都土地区画整理事業（全景）

伊都土地区画整理事業

地域創造支援事業
（産学連携交流センター第2棟）

地域創造支援事業
（有機光エレクトロニクス実用化開発センター）



高次都市施設（公民館（今宿））／地域創造支援事業（老人いこいの家（今宿））

凡　例

- ■基幹事業
- □提案事業
- ○関連事業
- 計画区域
- 高速道路･IC
- 国道
- 鉄道･駅

計画地区全体に関わる事業

- ○産学官連携支援活動（広報･啓発･人材育成）
- ○大学と地域の連携･交流促進事業
- □事業活用調査
  効果発現調査

まちの課題の変化	＜目標1に対する今後のまちの課題の変化＞ ・伊都土地区画整理事業が完成し、さらに平成29年に西都小学校が開校するなど，まちの賑わいが向上している。 ・九大学研都市駅利用者の増加に伴い、平成26年に学研都市駅北口広場のバスバースの増設（3→4バース）を行い、バスの増便を可能にする環境を整えた。また，平成27年度内に九大学研都市駅自転車駐車場が完成する予定であり、自転車利用者の利便性向上が見込まれる。平成30年度の農学系・文系の移転に伴い、さらに駅利用者が増加することが予想されるため、交通結節機能の強化を図っていく必要がある。 ・福岡志摩線の改良が進み、九州大学と九大学研都市駅を連絡するバス路線の走行性向上が図られている。九州大学と九大学研都市駅の交通アクセスを支援する学園通線の早期完成が望まれる。 ＜目標2に対する今後のまちの課題の変化＞ ・「産学連携交流センター2号棟」などの整備により、主に工学系分野での産学連携の強化が図られた。今後の九州大学のキャンパス移転を見据え、農学系など様々な分野における産学連携の取り組みを強化する必要がある。 ・元岡土地区画整理事業地区内には、未利用地が残されており、研究機関等の立地誘導を図る必要がある。 ・産学連携の強化等により、九州大学の魅力が向上し留学生が増加した。 ＜目標3に対する今後のまちの課題の変化＞ ・伊都土地区画整理事業、及び元岡土地区画整理事業が完成し、安全で快適な居住環境の充実が図られ、人口が増加した。計画地区におけるさらなる居住促進を図るため、引き続き安全で快適な居住環境整備を図っていく必要がある。 ・地区コミュニティ拠点としての機能向上を図った結果、公民館利用者数が増加した。引き続き地区コミュニティ活動の場の整備を進め、地区コミュニティを活性化させる必要がある。 ・留学生が増加しており、留学生と地域の交流をより活性化させる必要がある。
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	＜目標1に対する今後のまちづくりの方策＞ ・平成30年度の農学系・文系の伊都キャンパス移転に伴う駅利用者の増加に対応するため、バスの利便性を向上させるなど、九大学研都市駅における交通結節機能の強化を図る。 ・九州大学と九大学研都市駅を結ぶ幹線道路を早期完成させ、地区内の円滑な交通の確保を図る。 ＜目標2に対する今後のまちづくりの方策＞ ・元岡土地区画整理事業地区において、研究機関等の集積を図るとともに、平成30年度の農学系の伊都キャンパス移転を見据え、産学連携の取り組みを強化する。 ＜目標3に対する今後のまちづくりの方策＞ ・計画地区におけるさらなる定住促進を図るため、引き続き安全で快適な居住環境整備を図る。 ・計画地区における自治会等の活動を支援するため、地区コミュニティ活動の場の整備を行い、地区コミュニティを活性化させる。 ・留学生を含めた九州大学の学生・教職員と地域との交流をより活発化させることで、九州大学を活かした地域づくりを推進する。